

土をつくる

鉢・プランターの基本用土の配合

植物によって適する土の配合は異なりますが基本用土の配合は赤玉土(小粒)6～7割：腐葉土3～4割 または、赤玉土(小粒)3割：日向土(細粒)3割：腐葉土4割
※この用土は、ラン類などの植物以外に幅広く使用できます。

用土の配合方法と種類

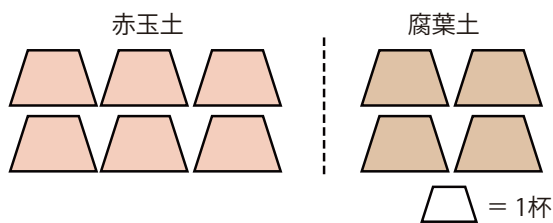
■赤玉土6、腐葉土4の配合土をつくる場合

赤玉土6＝6杯分

腐葉土4＝4杯分

※用土の配合は重さではなく、量によって行う。

赤玉土6、腐葉土4の配合土をつくる場合



■配合用土と元肥

植えつけ時に緩効性の元肥「マグアンプK」または「花咲く化成肥料」を用土に混ぜ込むだけで、肥料切れを防ぎ、植物の生育を途切れさせることがありません。またリン酸の働きで根の伸長を促し、花着きを良くします。

■用土の種類

種類	pH	通気性	保水性	保肥性
赤玉土	6.0～6.5	○	○	○
鹿沼土	5.5～6.0	○	△	△
真砂土(山砂)	5.5～6.5	△	○	△
田土	5.5～6.5	×	○	○
天神川砂 矢作川砂 富士砂など	6.5～7.0	○	×	×
桐生砂	5.5～6.5	○	△	△
軽石 日向土 パミスなど	6.5～7.0	○	×	×
水苔	4.5～5.0	○	○	△
腐葉土	5.5～6.5	○	△	○
ピートモス	3.5～4.5	○	○	△
バーク堆肥	7.0～7.5	○	△	△
パーライト	7.0	○	×	×
バーミキュライト	7.0	△	○	○

用土の配合時のポイント

- (1) 花着きの悪い草花類には、「赤玉土」などの粒状の用土と「腐葉土」を混合し、乾きやすい(気相率の高い)混合用土にします。
- (2) 根腐れを起こしやすい植物や、根の張りの悪い植物などには、通気性を良くし、土の中の空気(気相)を多くする「軽石」「日向土」「パーライト」などを3割程度混合します。
- (3) ベランダなどの乾燥しやすい場所では、水持ちの良い「バーミキュライト」などを2割程度混合し、保水効果を高めます。
- (4) アジサイ(青色花の品種)、ブルーベリー、エリカ、サツキ、ツツジなど酸性の用土を好む植物には、「ピートモス」や「鹿沼土」を混合します。
- (5) 室内植物の用土には、清潔な土が不可欠ですから、「ピートモス」「パーライト」「バーミキュライト」などを中心に配合します。
- (6) ハングングバスケット用土は、あまり重いと落下の危険性がありますから、軽い用土の「ピートモス」「バーミキュライト」「パーライト」を混合します。一方、草丈の高い植物には、適度な重さのある赤玉土をベースにします。
- (7) 種まき用土は清潔な土が必要ですから、「ピートモス」と「バーミキュライト」の等量配合などが適しています。
- (8) さし芽用土は、「バーミキュライト」「鹿沼土」の単用が適しています。

花壇、菜園の土づくり

- (1) 植えつける2～3週間前に、排水性、通気性を良くするためにできるだけ深く掘り起こし、十分に日光に当てます。(深さ約30～40cm)
- (2) 掘り起こした後、腐葉土や堆肥などの有機物(バケツ1～1.5杯/m²)と「苦土石灰」(100g＝紙コップ1/3)を混ぜ込みます。
- (3) 毎年、草花、野菜を植えつけている土は、劣化していますので「古い土・再生します」を混合することをおすすめします。
- (4) 植えつける直前に、元肥として「マグアンプK(中粒)」または「野菜の肥料有機100%」を土に混ぜ込みます。
- (5) 野菜(キュウリ、ナス、トマト、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ類)のアブラムシの予防として「ブルースカイ粒剤」、または株元に直接まける「オルトラン粒剤」を混ぜ込んでくと効果的です。

How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

